

# 基本計画

## 1 章 計画の前提

### 1-1. 本事業の背景

#### ■嘉手納町の特徴及び現状

嘉手納町は沖縄本島の中部に位置し、県都那覇から北に約 23 kmの位置にあります。沖縄本島最大の流域面積を誇る比謝川が東シナ海にそそぐ地として自然豊かな環境で、沖縄でも最も古くから開け、人々が住み着いていたものと考えられており、琉球王朝時代から優れた人材を輩出してきた土地柄でした。明治時代に入ると、本島のほぼ中間という地の利から、陸路（那覇や南部と結ぶ県営鉄道の終点）、海路（汽帆船による北部からの海運）の結節点として、中島部の経済、文化、教育の中心地となり繁栄した歴史を誇ります。

第 2 次世界大戦中には、日本軍が沖縄中飛行場を建設し、上記のような立地条件（本島の中間地点、海岸に開けた地、比謝川の存在等）も相まって米軍の沖縄本島最初の上陸地、すなわち沖縄戦の始まりの地となり、甚大な被害を受けました。終戦後、飛行場は米軍に接收され、当時の行政区域（北谷村域）が完全に分断される形となったことから、1948(昭和 23)年に現在の嘉手納町となる嘉手納村が分村・独立しました。その後も冷戦構造のもとで、米軍は嘉手納飛行場を「極東最大の米軍基地」（極東空軍の中枢）として重要視し、整備拡張が繰り返された結果、現在では嘉手納町の 82%にもものぼる面積が米軍飛行場及び嘉手納弾薬庫地として接收されるという特異な環境にあります。

「基地の島沖縄」の縮図といわれる所以です。

こうした現状から、基地との共存による地域活性化が大きな検討課題であるとともに、生まれた時から基地がある環境という世代が多数を占めるようになる中、嘉手納の歴史の継承、地域アイデンティティの醸成も課題となっています。

#### ■本施設の現状とリニューアルの経緯

「道の駅かでな」は、2003（平成 15）年 4 月にオープンした施設です。

4000m 級の滑走路 2 本を備える東アジア最大の米空軍基地・嘉手納飛行場に隣接し、滑走路を一望できるという特徴から、4 階展望場が人気を呼び、毎年 50 万人以上の来場者を数えています。しかし、展望場での基地見学を終えるとすぐに施設を出てしまう通過型施設となっていることから、利用者の滞在時間の短さや消費単価には課題が残っていました。

このため、2013（平成 25）年度に新たに事業用地を買入れ、新施設へ向け 2014（平成 26）年度に基本計画、2015（平成 27）年度に基本設計、2017（平成 29）年度には実施設計を策定し、2021（令和 3）年度には展望場を現在より基地側に 36m ほどせり出す形で増設するとともに、飲食店や特産品販売所などの充実を図るなど施設全体としてのリニューアル工事を実施し、観光誘客施設としての魅力の増進と機能拡充を目指してい

るところです。駐車場も増設しており、リニューアル後は80万人の入場者を予定しています。

「学習展示室」は、10年以上前の2011（平成23）年にリニューアルしており、新たな「戦前・戦後の地域の歴史を正しく継承し、町のアイデンティティを再確認する」というコンセプトのもとで展示構成を一新し、リニューアルオープン後は、地域の人々の来館も大きく増加しました。ただし、展望場への入場者数に対し、学習展示室への来場者は数万人となっており、改善の余地があります。「第2次嘉手納町観光振興基本計画」<2018（平成30）年>によると、学習展示室の利用は、学校関係者が最も多く

（41%）、次いで外国人の団体旅行者（34%）となっており、月別入場者数の分析からは、学校関係者については修学旅行関係が多いことが指摘されています。

また令和4年度以降には新たに嘉手納町比謝川自然体験センター展示室及びかでな未来館内にある民俗資料館が供用開始を予定しております。各施設の特色に合わせた展示コンセプトを設けており、比謝川自然体験センターは比謝川の豊富な自然を活用した自然学習としており、かでな未来館は本町の歴史・文化の内容に特化した展示を予定しております。

こうした分析の結果や新たに供用開始が始まる施設の現状を踏まえ、道の駅かでなの学習展示室も基地がある現状から沖縄戦など平和学習に特化した展示内容にリニューアルする必要があり、施設全体の魅力増進による、多くの来場者を誘引するためのサービスや機能の強化が求められているところです。

#### ■観光振興の核としての役割（上位計画から）

「第5次嘉手納町総合計画」<2019（平成31）年>では、県のリーディング産業でもある観光について、外国人観光客の増加などを含め国全体として観光振興施策が進められていることを踏まえて魅力ある産業振興が求められている、としています。また、日本全体として戦後生まれが人口の80%を超えており、「平和教育」への取り組みが求められていることも指摘されています。

「第2次嘉手納町観光振興基本計画」でも、嘉手納の地域ブランディングの柱の一つとして「平和学習の推進」があげられています。米空軍基地自体を間近に見ることができるという全国でもここだけしか経験できない貴重な体験を、他にはない平和学習に係る観光資源と捉え、道の駅かでな「学習展示室」の充実を図るよう指摘されています。

道の駅かでなは現在でも海外から多くの観光客が訪れる町の主要観光スポットとして存在感を示していますが、さらに学習展示室の充実を図ることで満足度の向上を図り、海外からの来訪者や戦争を知らない若い世代に対して需要を喚起していくことが求められています。

加えて、沖縄県の観光資源といえば、豊かな自然、独自の歴史・文化、そして戦跡・平和学習があげられるところであり、嘉手納町には、風向明媚な比謝川とウオーターフロント、嘉手納ならではの古代からの繁栄の歴史（史跡）、そして沖縄戦以来の背景を持つ嘉手納基地があります。現在、町では、比謝川のビジターセンターとともに史跡をた

どる遊歩道なども整備されつつあることから、すでに多くの来訪者を迎えている道の駅かでな「学習展示室」をさらに充実させ、自然資源や歴史資源との連携を図ることにより、多様化する教育旅行のニーズに対応するとともに、地域での回遊性を高め、滞留時間の増加やまち全体の活性化へとつなげることも重要な課題といえます。

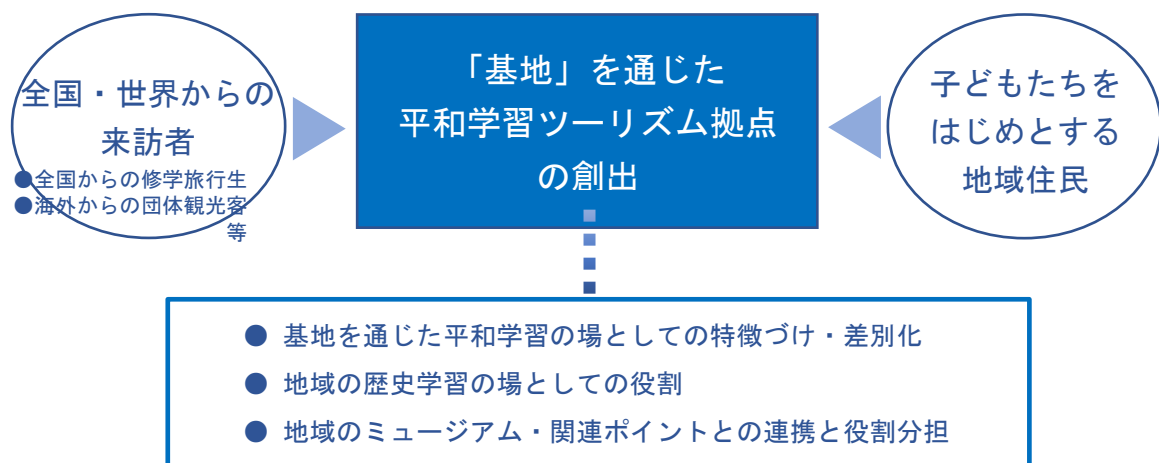
## 1-2. 本事業の目的

### ■ねらい

ここにしか無い展望体験とともに、  
若者世代や海外からの来訪者に対しても分かりやすく興味深い  
嘉手納ならではの「平和学習の場」を創出することで  
交流人口の増大および地域活性化に貢献する

実際の基地を目にできる道の駅は、ここ「道の駅かでな」の他にはありません。  
この展望体験をベースに、戦争を知らない若者世代、海外からの来訪者などにとっても理解しやすく、興味・関心を引く平和学習展示を意図することで、より多くの来場者を呼び、交流人口の増大、地域振興の拡充につながることを目指します。

### ■方向性



基地に隣接し、基地を直接見ることができるという、他にはない特徴を生かし、観光・交流の拠点となるよう『「基地」を通じた平和学習ツーリズム拠点の創出』を目指します。

「基地」という存在を通して考える「平和学習の場」としての特徴づけにより、他の戦争・平和学習施設との差別化を図り、主たるターゲット（利用者）である修学旅行生や

団体観光客などに向けて、より独自性ある訴求、より多くの来訪促進へとつなげることを目指します。

また、地域の子どもたちはじめ、生まれた時から基地があるという地域の住民に対しても、なぜここに基地があるのか、など、基地を通じた観点から地域の歴史に触れることができる場を提供することで、地域の歴史学習を補完していく役割を果たします。

さらに、基地のあるまちの背景を知るためには、地域の自然や歴史的なポイントの紹介も欠かせません。今後多様化していく教育旅行のニーズに向けても、嘉手納町の多面的な歴史文化、自然の魅力について、現在整備中の民俗資料館、比謝川ビジターセンターと本学習展示室とで役割分担しながら情報発信に努め、来訪者をフィールドへと誘い、観光交流の促進、地域全体としての活性化へとつなげられるよう留意します。

### 1-3. 本施設の概要

#### ■施設概要

名称 嘉手納町屋良東部地区地域振興施設(道の駅かでな)

位置 嘉手納町字屋良 1026 番地 3

施設 建築構造：鉄筋コンクリート造 4 階建て一部鉄骨造  
(既存棟：RC 造／増築棟：S 造)

延床面積：2,663.18 m<sup>2</sup>

1 階 案内・休憩室、団体待機所、特産品展示販売場、特産品手作りコーナー、軽飲食コーナー、テナント、物品販売所、倉庫、多目的広場、軒下広場、トイレ、多目的トイレ、授乳室、イートインスペース等

2 階 食堂等、トイレ

3 階 学習展示室、事務室、倉庫、トイレ、用具室

4 階 展望場、展望場販売コーナー、トイレ、屋外階段等

施設駐車場 91 台

(大型車両用 11 台、普通自動車用 76 台、身体障害者用 4 台)

◇学習展示室の位置：道の駅かでな 3 階

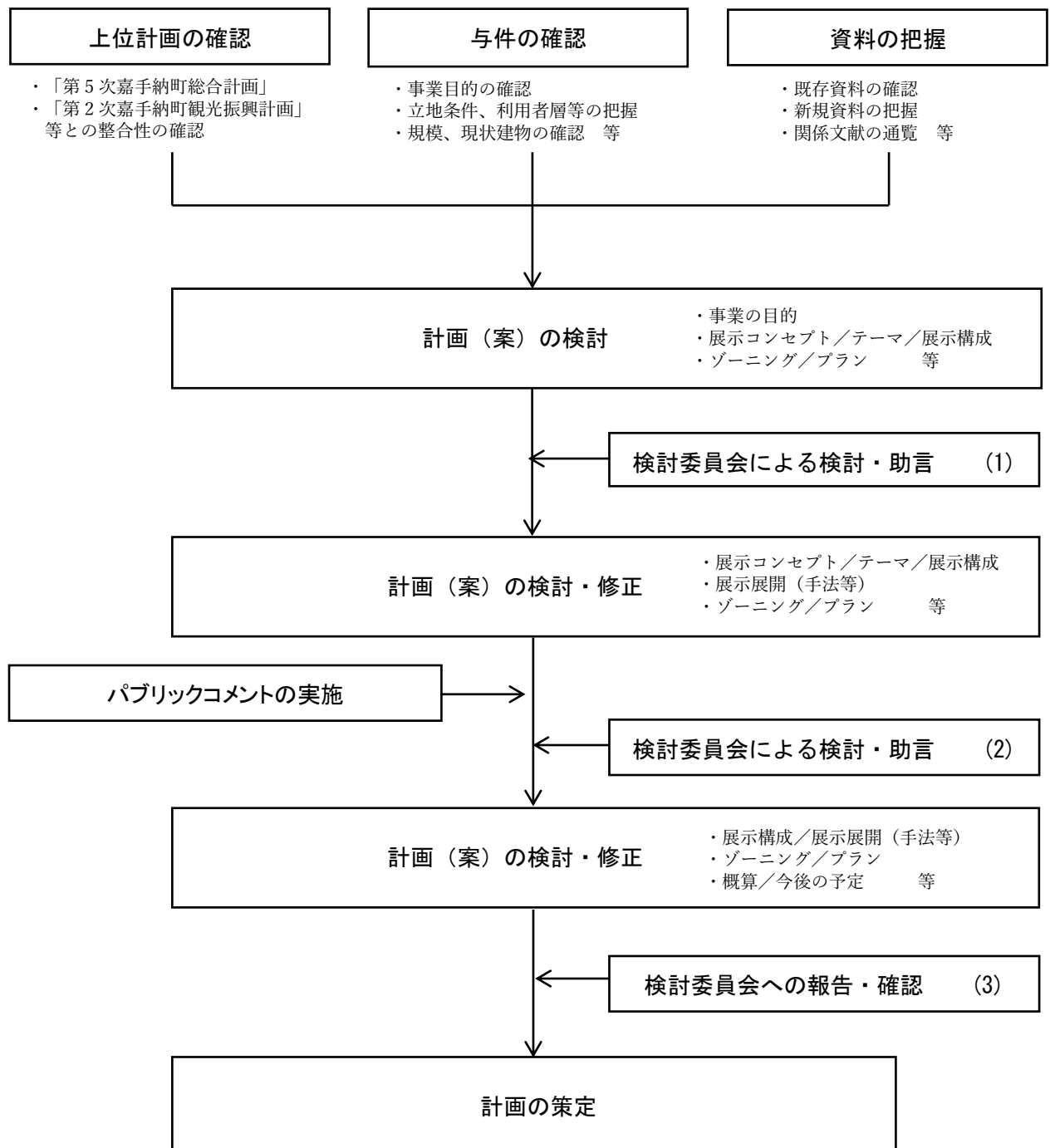
〃 面積：162.27 m<sup>2</sup>

## 2章 計画策定の手順

### 2-1. 計画策定の手順

計画の策定に当たっては、まず上位計画等の確認、現状の展示室や資料等の把握などをもとに、リニューアル後の展示のあり方を検討し、展示コンセプトやテーマを確定、全体概要（構成、内容、展開等）を検討しつつ、専門家による委員会での助言、またパブリックコメントによる一般からの意見などを参考として最終的な定着へとつなげます。

#### ■計画策定の流れ



## 2-2. 検討委員会の設置

本事業の目的等に沿った有識者による検討委員会を設置し、2022（令和4）年2月から3月の間に3回の検討委員会を開催し、計画に反映しました。

### ■検討委員会の設置

検討委員会

役職	氏名	現職
委員長	比嘉 孝史	嘉手納町副町長
副委員長	神山 吉朗	嘉手納町史編纂審議会
委員	新城 俊昭	沖縄大学客員教授
	上地 克哉	読谷村教育委員会文化振興課課長
	喜本 てつ子	嘉手納町観光協会事務局長
	高良 守	道の駅かてな駅長

## 3章 展示計画

### 3-1. 展示コンセプト

#### ■基本理念

嘉手納ならではの「基地」を通じた平和学習ツーリズムの拠点として  
沖縄戦や基地の存在、基地のある暮らしについて学び  
戦争と平和について自らのこととして考えるきっかけとなることを目指す

「学習展示室」は、「基地」に隣接していることで、その基地の存在から戦争と平和に関するさまざまな課題を学べる環境にあります。

展示にあたっては、この特徴を生かし、基地の存在を通して、沖縄戦（第2次世界大戦）や、沖縄戦後のさまざまな状況、世界と関連する戦争と平和の問題、また基地がそこにあることによって生じる地域への影響などについて、短時間でもわかりやすい展示を提供することで、県内外の他の平和学習施設との違いを明確にし、多くの来館者の誘引へとつなげます。

また、それぞれの来館者が戦争や平和について、できる限り自らに引きつけて感じ、考えることができる展示とすることを目指します。

#### ■本施設が提供する平和学習の特徴

特定の主張や政治的なメッセージを伝えるのではなく、基地のある状況など事実を事実として示すことで、訪れた人たち一人一人がそれぞれ自ら考えることができる形を目指します。

#### ■テーマ

**「僕のまちには基地がある」**

町域の大半を基地・基地関連地が占める嘉手納町ならではの特徴を示すとともに、「基地」を通じて戦争や平和について考える展示であることを表現するため、上記「僕の町には基地がある」を展示のテーマとして設定します。

嘉手納町に暮らす高校生の“僕”の目線で捉えた展開を取り入れていくことで、学習展示室の主な利用者として想定される修学旅行生など、若者世代にも共感でき、自らに引き寄せて考えられることを意識した設定です。また、生まれた時から「基地」があることが当たり前となっている地域の子供たちなどに対しても、基地のある事実を改めて考えるきっかけとなるよう考慮しています。

## ■展示整備方針

### ●多様なニーズに対応する展示環境の整備

個人客にはセルフガイド（学習を意識した解説計画、パンフ等）でわかりやすく、修学旅行生や団体観光客などに向けたガイドツアーでは、より深くさまざまな情報を伝えられる形を意識します。

### ●来場者の好奇心を刺激し学習意欲を引き出す演出

展示手法・演出については、AI等、デジタル技術や最新の映像技術を取り入れることで、インターフェイスとしてのエンターテインメント性ととも、感覚的、直感的な理解を促すなど、展示への興味・関心を高めるよう努めます。また、嘉手納町ならではの体験性についても検討し、修学旅行生や子どもたちの学習意欲を引き出せるよう留意します。

### ●海外からの利用者を意識した多言語化

海外からの観光客も主要な利用者として想定されることから、外国語の利用案内をはじめ、展示解説の多言語化を進めます。

### ●ユニバーサルデザインへの配慮

訪れる人すべてが快適な環境で同じように展示を享受できるよう、身体的な不自由を補うとともに、ストレスを軽減するユニバーサルデザインに配慮します。目や耳の不自由な方、車椅子利用の方や高齢者等の利用に配慮した設計を進めます。

### ●更新性の確保

グラフィックをはじめ、映像・検索装置などについても、コンテンツの入れ替え、情報更新のしやすさに配慮した設計を検討します。

### ●什器の耐久性、ランニングコストの低減への工夫等運営への配慮

展示設計については、極力シンプルな構造、機構を採用することを基本的なスタンスとし、耐久性の高い最適な機器・部材等の設定に努めます。また、日常的なメンテナンスが必要な部分については、汎用性の高い部品、部材を優先的に導入するなど、ランニングコストの低減など運営面に配慮した設計とします。

## 3-2. 展示ストーリー

### ■展示の基本構成（別添参照ください。）

### ■展示内容（別添参照ください。）

## 3-3. 展示展開（別添参照ください。）

## 3-4. 既存展示資料の概況

### ■既存展示室資料の確認



現状、学習展示室に実物資料はありません。今後、実物資料の発見（寄付、寄贈等含む）などがあった場合も、保存環境などを考慮すると、一義的には現在整備中の町資料館での活用を想定します。

その他、既存の展示関係品で、新展示に向けて利用の可能性があるものとしては、基地フェンスを模したフェンス造形、飛行機模型、検索装置内やグラフィックで活用された写真類などが考えられます。フェンスなどは大型造形物であることから限られたスペースの中での再利用には検討が必要となります。飛行機の模型類については、今後も含め嘉手納基地配備の飛行機が変化することから、模型など固定的な展示自体を見直すことも検討されます。写真類は、新展示に利用する場合には、それぞれの展示に見合ったデータが必要であり、また、新たに著作権処理が生じます。

こうした諸条件を考慮し、新規の展示活用については、新たな展示ストーリーとの整合および展示内容と合わせて検討していきます。

## ■その他

現代の、基地との交流に関連する資料として以下のようなものがあります。

- ・教育委員会発行「教育大綱」

嘉手納基地の協力により、基地内でインターシップが行われていることを示すとともに、嘉手納基地内ボランティアの協力により、実践的英会話等、国際交流プログラムが行われていることを示す資料。

- ・「English Conversation Program December10th,2021」

国際交流プログラムの一環としての英会話プログラムのチラシ。

- ・「大きな輪 BIG CIRCLE」

公開基地イベントを紹介するパンフレット。

利用については、既存の展示関係品とともに、展示ストーリーとの整合および展示内容と合わせて検討していきます。